

はじめに

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学教育学部教育学科宇宙地球科学教育研究室 公開日: 2023-04-18 キーワード: 作成者: 下村, 知愛, 高橋, 典嗣 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2087

はじめに PREFACE

地球の一つ外側の軌道を回る赤い色の惑星『火星』が、2022年12月1日に地球に近づきました。この時の火星と地球との距離は、8451万kmで、大接近ではありませんでした。しかし、実視等級（見かけの明るさ）は、 -1.8 等級となり、オリオン座のベテルギウスとリゲル、おうし座のアルデバランなどの1等星とともに冬の夜空を飾り、その中で一番輝いていた星が「火星」でした。

今回の火星接近に伴い、東京、新潟、神奈川の各地で火星の観測会を開催しました。これは、研究テーマ「小学校理科における星の動き・月の満ち欠けの理解に影響する方位概念・空間概念・視点移動概念の形成（2022年～2024年）」における天体望遠鏡による体験活動として実践したものです。また「星の学校」、「星の学校 in 武蔵野大学」、「武蔵野大学生涯学習講座」などで火星や地球外生命に関する講演を行いました。

何回か実施した火星の観測会で話したことや講演内容を「謎の惑星・火星」、「探査機により解明された火星の姿」、「火星に生命を求めて」の3つの項目に編纂・執筆し、「宇宙教育研究」に掲載することにしました。

火星が次に地球に大接近するのは、2033年7月5日、2035年9月11日、そして2050年8月15日です。2050年の接近では5596万kmまで地球に近づき、視直径は25秒、 -2.9 等まで明るくなります。大接近するのは少し先になりますが、火星は約2年に一度地球に近づいてきます。火星が接近し、火星を眺めるときに、今回の接近を一つのピリオドとして、これまでの火星と人類の関わりや科学探査により得られた火星の知見をまとめた本誌を活用し、より火星に興味を持っていただければ幸いです。

編著者 下村知愛・高橋典嗣



絵：下村知愛

この絵に隠された言語と数字の意味を調べてみましょう。